

鎌倉市における戸別収集のあり方について方針（素案）の説明会概要

令和6年3月4日（月）18時00分から19時00分 玉縄学習センター第4集会室

参加者12名

- 1 ごみ減量対策課担当課長挨拶
- 2 方針（素案）の説明
- 3 質疑応答

Q 戸別収集の開始時期を教えてください。

A 順調に進めば、令和7年4月に一部先行地区から開始する想定である。

Q 先行地区の選考方法は。

A 資料に記載のとおり、4項目を設けて選考する。

Q 導入するにあたり困難が予想される地域や、クリーンステーション(以下、CSという。)の設置や維持管理に問題を抱えている地域を優先項目に組み込んでほしい。

A CSについては、現状トラブルが無くても一部の方に負担がかかっていることを懸念している。導入が困難な地域などは優先項目に入れるか検討したが、今のところ優先項目には入れない想定である。

Q 容器包装プラスチックもガラスに荒らされるので、戸別収集にしてほしい。

A まずは「燃やすごみ」から始めて、ノウハウを蓄積しようと考えている。IoTを利用して、データ収集や分析を行っているのでそういった力も借りながら徐々に品目を拡大していこうと思っている。

Q CSが道路にあると片方の車が通るまで待つなければならない、子供が危ない思いをしている。CSの管理には偏りがあり、高齢者のごみ出しも負担になっている。自分のごみは自分で処理する意識を高めないといけないと感じている。

A CSの半数は道路上にあり、全品目戸別収集になればそういった課題も解消できる。

Q 戸別収集とCS収集の選択制にすれば良いのでは。

A 東京では選択制を採用している市もあり鎌倉市でも検討している。先行自治体の例だと、CSを継続使用するときは、そこを利用している全員の承諾がある場合のみ継続している。

Q ごみの有料化の歳入は何に使われているのか。

A 毎年約3億円の歳入があり、指定収集袋の作成や流通、減量・資源化に係る経費、一般廃棄物処理施設建設基金への積立てに各1億円ずつ使っている。

Q 基金にはいくら貯まっているのか。また、使われているのか。

A 基金には16億円貯まっている。当初は、焼却施設を建設予定だったが、それが無くなり今は広域で処理をすることとなっている。名越に中継施設を建設予定であり、そちらの整備に基金を充てる。

Q 市の予算を有効活用していただきたい。戸別収集は費用もかかるので、選択制にすればコストも抑制できるのでは。

A 東京では選択制を採用している市もあり鎌倉市でも検討している。先行自治体の例だと、CSを継続使用するときは、そこを利用している全員の承諾がある場合のみ継続している。

Q 戸別収集になると収集時間は延びるか。

A 制度導入開始当初は、時間がかかることが予想されるが、収集事業者が慣れてくれば収集時間も安定すると思われる。

Q 指定収集袋は値上げするのか。

A 有料化はごみの減量のために実施しているため値上げはしない。

Q 人手不足だが、プロポーザル方式で事業者は受けてくれるのか。また、事業者が継続してやっていけるのか。

A 単年の契約ではなく、複数年の契約を担保して、事業者が人員や車両を手配しやすいようにする。将来さらに高齢化や人手不足が進むことが予想されるので、戸別収集をいま導入したいと考えている。

Q 収集員だと一目でわかるようにしていただきたい。

A 現在は業者によって、収集員の服装も違うので戸別収集になったら統一感を出すことも検討する。

意見

・パブリックコメントや説明会を実施していることを自治会町内会の回覧版で周知してほしい。市民周知が足りていない。

・コストの数字が市民を説得させるように感じるのので、丁寧に説明していただきたい。

・自分のごみは自分で処理する意識を高めないといけない。戸別収集にすれば意識があがると考える。